

平成26年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



海老名市立有馬小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5
(資料) 指導や学習・生活習慣と学力との関係	P. 6



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査（平成23年度は震災の関係で実施を中止）でしたが、昨年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）

国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）

【中学校】

国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）

国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成26年4月22日（火）



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れているところ》

- ・漢字を読むことに関しては比較的に正答率が高い。日頃から学校や家庭において、音読練習を継続的に行っていることが、その要因の一つとして考えられる。
- ・国語辞典を用いて言葉の意味や使い方を理解することに関しても、比較的に正答率が高い。言葉に対する関心があり、日頃から学習の中で、辞書を用いていることが正答率につながっていると考えられる。

《努力を要するところ》

- ・漢字を正しく書くことに関しては、努力を必要としている。
- ・故事成語の意味や使い方に関する理解が不十分で、文章の中で適切に用いることができていない。
- ・物語の登場人物の相互関係を捉える力が不十分で、努力を必要としている。
- ・文章の中で、接続語を適切に用いることができていない。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れているところ》

- ・文章の中からふさわしい言葉を選んだり要点を見つけて短い文にまとめたりすることは、比較的に得意である。
- ・人の意見を受けて、それをまとめることは比較的に得意であり、いくつかの中から適切な意見を選択することができている。

《努力を要するところ》

- ・語彙力に乏しく、耳慣れない言葉(たとえば「引用」など)が問題の中に出てくると意味が理解できず、誤答が多い。
- ・複雑な問題のテスト様式に慣れていないと考えられる。設問によっては諦めてしまう傾向が見られる。
- ・最も課題として考えられる点の一つとして、自分自身の考えを持ち、それを表現することに苦手意識がある。

今後の具体的な取組

- ・日頃の授業で自分の考えを友達と交流する場を意図的に設定するようにする。
- ・国語以外の教科においても、言語活動を充実していくようにする。
- ・ていねいな漢字指導を継続して行っていくようにする。(字形に気をつけ、正しく書く習慣を身につけさせたい。)



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れているところ》

- ・加法や乗法、除法についてよく理解して、正しく計算することができている。
- ・加法に関しては、分数どうしの加法もよく理解している。
- ・体積の求め方や多角形の周りの長さ等公式についてよく理解している。

《努力を要するところ》

- ・小数の入った計算や混合の四則計算が苦手である。
- ・指定された条件に合った作図は苦手である。
- ・ある数を基にして比べた大きさを求めることや、割合の考え方が苦手である。
- ・立体図形とその見取り図の見立てや面のつながりや位置関係について理解できない。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れているところ》

- ・示された場面から計算の結果の見通しを持って計算することがよくできている。
- ・設問の意図が分かりやすい課題では、正答率が高い。

《努力を要するところ》

- ・図やグラフを活用して解決することが難しいと感じている。
- ・長い文章の問題の読みとりが苦手なため、①をもとに②を考えるような応用問題になると最後まで取り組めない傾向が見られる。
- ・示された情報を整理し、筋道を立てて考えることが苦手である。
- ・なぜその計算になるのかという理由や計算方法を記述することが苦手である。

今後の具体的な取組

- ・単量を基にした考え方を意識的に取り上げ、活用する場面にまで発展するような授業づくりに取り組む。
- ・文章の理解力を養うために、算数だけではなく、各教科学習や読書活動などを通して読解力や文章力を培っていく。
- ・立体図形に関しては、デジタル教科書の利用や作業的な活動を積極的に取り入れるなどして、想像力や空間認知力の育成を図っていく。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかったところ》

- 約90%近くが宿題をしている。
- 「勉強は大切だと思うか」に対し国語は約7割算数は約6割が「とても大切」と考えている。また、国語算数ともに7割近くが「将来、社会に出たときに役に立つと思う」と答えている。
- 国語では約8割、算数では約7割が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えている。
児童は、勉強は大切であると理解している。
- 「読書は好きか」に対し、「好き」「どちらかといえば好き」が約70%である。
本好きの児童が多いことがわかる。
- 国語の授業は「好き、どちらかといえば好き」の割合は90%以上であった。

《課題と思われるところ》

- 「授業の予習、復習をしているか」に対して「よくしている」割合は2割に満たない。
- 自分で計画を立てて勉強している割合も3割と低い。勉強は大切と思いつつもやり方や計画の立て方がわからないと推測される。
- 「授業の内容はよく分かりますか」では国語算数ともに「よく分かる」が3割強である。また「分からないことがあったらどうするか」でも「その場で先生に尋ねる」か「後で先生に尋ねる」の割合は半数に満たない。教員の大きな課題といえる。
- 「感想文や説明文を書くこと」また、「自分の考えを他の人に説明したり、書いたりすること」が「難しい、どちらかといえば難しい」と答えた児童は6割近い。自分の考えを表現することを苦手としていることがうかがえる。

生活について

《よかったところ》

- 朝食をほとんど毎日食べると答えた児童は約93%である。
- 「学校に行くのが楽しいと思うか」に対して、「そう思う、どちらかといえばそう思う」と答えた児童は約95%と高い。学校生活を楽しんでいることがわかる。
- 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか」に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は95%近くいる。上記の学校が楽しいという理由の一つと考えられる。
- 「友達との約束を守っているか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思うか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」に対し「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答えた児童はいずれも96%を超えている。友達思いで、人との関わりを大切にしている優しいありまっ子の姿が浮き彫りになっている。

《課題と思われるところ》

- 「自分にはよいところがあると思うか」では、「よく当てはまる」が41.1%「どちらかといえば当てはまる」が37.5%である。もっと高い数値を期待したいところである。自分に自信を持ってほしいと願う。
- TV視聴について4時間以上が約32%である。TVやネットのニュースを66%がよく見ている。その反面、新聞については、63%の児童が「全く読まない」と答えている。文字よりTVやPC画面から情報を得ていることがわかる。
- 「学校の決まりを守っているか」に対し「よく守っている」と答えたのは約3割である。もう少し規範意識を高くもてるとよい。

今後の具体的な取組

- 調査結果から、有馬小が目指す「楽しい学校」の実現に近づいている。
今後も児童がこれまで以上に楽しく笑顔で登校できるように「全職員が全担任」という意識をもち、チームとして取り組む。
- 「わかりやすい授業」をめざす。〈教材研究 教具の工夫〉
基礎学力向上、学び合う・高め合う学級作り、明確な学習の方法、家庭学習の在り方等について手立てを考え、計画的に取り組む。
- 家庭との連携を強化し地域に根ざした学校作りをすすめる。



ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 「早寝、早起き、朝ごはん」を続けていきましょう。

基本的な生活習慣を身につけていることは、学習面に良い影響を与えています。規則正しい生活のリズムを大切に、健康的な生活を送ることが学力向上にもつながります。



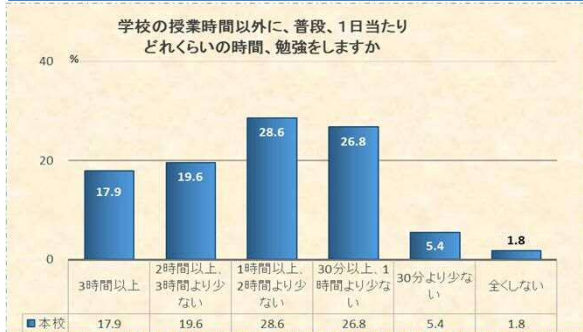
2 テレビやゲームの時間を減らしましょう。

お子さんとよく話し合い、テレビを見たりゲームをしたりする時間や約束を決めるなどして時間を有効に使いましょう。また、本に親しむ時間を増やすなどして、読書のおもしろさとともに、思考力や想像力を伸ばしていきましょう。



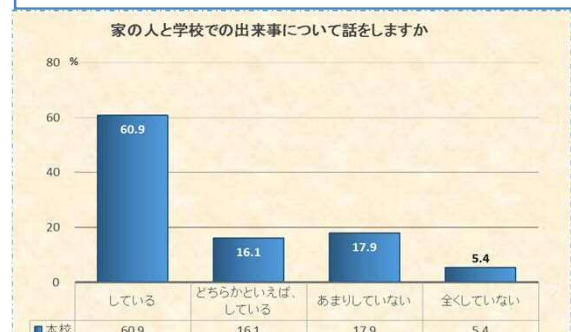
3 家庭学習を継続し、さらに内容の充実した学習を積み重ねていきましょう。

全校で取り組んでいる「家庭学習頑張りカード」を継続し、学習の質を上げていくように意識しましょう。お子さんへ「がんばっているね。」などの励ましの言葉をお願いします。



4 豊かな言葉や対話を大切にしましょう。

普段の生活の中で、お子さんとゆっくりと向き合えるひと時をもちたいものです。学校であったことなど、耳を傾けてあげてください。豊かな言葉と温かい心を育みます。



5 自分のよさに気づき、自信がもてるような言葉がけをしましょう。

“3つほめて1つ叱る”など、お子さんの良い所を見逃さずにほめ、お子さんを認める言葉を積極的にかけていきましょう。



6 人の気持ちを思いやることのできる豊かな感性を育てていきましょう。

ゆったりとした時間、ほっとする居場所をもつことは、心の安定を図ることにつながっていくことでしょう。



資料

指導や学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ており、今後の指導や家庭・地域への呼びかけに生かして行きたいと考えています。

学校における指導と学力との関係

次のような指導を行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
さらに、学習意欲や家庭での学習時間等についても高い傾向にある。
(教科に関する調査、学校質問紙調査より)

【指導方法・学習規律】

- ・ 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど)の維持徹底
- ・ 学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導
- ・ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与える
- ・ 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導

【国語科・算数科の指導方法】

- ・ 発展的な学習の指導
- ・ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業
- ・ 算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業

【言語活動】

- ・ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける
- ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- ・ 発言や活動の時間を確保した授業
- ・ 学級やグループで話し合う活動
- ・ 資料を使って発表ができるよう指導
- ・ 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導

【総合的な学習の時間】

- ・ 総合的な学習の時間における探究活動(課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導)

【家庭学習】

- ・ 調べたり文章を書いたりする宿題を与える

【研修】

- ・ 教職員が、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映

児童の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
(教科に関する調査、児童質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・ 国語、算数に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・ 学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・ 自分で計画立てて勉強をする
- ・ 学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・ 読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学校生活】

- ・ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・ 先生は、自分のよいところを認めてくれると思う

【基本的生活習慣】

- ・ 朝食を毎日食べる
- ・ 毎日、同じぐらいの時刻に寝る

【メディアとの関係】

- ・ 携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間が短い
- ・ テレビゲームをしている時間が短い

【家庭でのコミュニケーション等】

- ・ 家の人と学校での出来事について話をする
- ・ 家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【社会に対する興味・関心】

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ・ 新聞を読んでいる
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る

【自尊意識・規範意識】

- ・ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・ 学校のきまり・規則を守っている
- ・ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

「えびなっ子しあわせプラン」ってなあに？

「えびなっ子しあわせプラン」は今年度から平成28年度までの3年間の海老名市の教育プランです。

ひとりひとりの海老名の子どもが、将来、しあわせに生きるために必要な「3つの力」を小・中学校の義務教育9年間で、学校や家庭、地域の教育をとおして、確実に身につけることを目的としています。

◇◆しあわせに生きるために必要な「3つの力」◆◇

学 力

大人になっても学習をつづけるために
基礎的な学力と学習意欲を身につけよう！



.....
教員の授業力を高めます。（授業改善の取組）



.....
小中一貫教育を進めます。（試行校での研究）



.....
市費の教員やボランティアを配置します。

集団力

人間関係を作り、集団の中で自分の役割を果たし、
自分を生かす力を身につけよう！



.....
人間関係作りの学習計画を作成します。



.....
いじめや不登校の問題に積極的に取り組みます。

健康安全力

自分の健康や安全に気をつけて、
いつまでも楽しく生活する力を身につけよう！



.....
体力・運動能力の向上をめざします。



.....
自分の命を守るための学習計画を作成します。

学校と家庭と地域がスクラムを組んで子どもを支えます



みなさまのご理解とご協力をよろしく申し上げます。

海老名市教育委員会



平成26年12月